

Bookstart Newsletter



2021
冬
No.71

ブックスタート・ニュースレター



大阪府泉南市 (2017年4か月児健診にて)

特集

コロナ禍のブックスタート

～ 4自治体の事例から～

日本でブックスタートが開始して20年、東京オリンピックも開催される予定だった2020年は、新型コロナウイルスに世界中が揺れ動いた一年でした。

思うように外出できず、人との交流が限られる生活環境は、子育て中の保護者にも大きなストレスを与えています。2021年も当面この状況が続くことが予想され、ブックスタートにも引き続き影響が及びそうです。

ブックスタートは単なる絵本の配付事業ではなく、読みきかせの「体験」とともに絵本を手渡すことが大切です。また、地域の人が赤ちゃんや保護者とふれあい、子育てを応援していることを伝える場でもあります。しかし、人と人の接触を極力避ける必要がある現在は、今まで通りに事業を行うことが難しくなっています。

今回の特集では、こうした状況にある中でも、なんとか絵本でふれあう楽しい時間を届けようと、試行錯誤をしながらブックスタートに取り組んでいる、4つの自治体の事例を紹介します。

VOICE



埼玉県三芳町立図書館 司書
代田 知子さん

「同じ場を共有する」
「生の声を届ける」意義を再確認

自粛期間中、図書館ではブックトークの動画配信にもチャレンジ。「映像を見たよ」と言ってくれた子もいましたが、その多くは、いつも図書館を利用している子だったように思います。顔見知りの人が画面上で話しているからこそ、興味をもってくれたのかもしれない。オンラインでできることも、もちろんあります。でもこのコロナ禍でのブックスタートを通じて、「同じ場を共有する」こと、そして「生の声を届ける」ことの意義を改めて感じました。赤ちゃんとの絵本のひとときの楽しさを「体験」してもらおうのがこの活動の特徴。感染予防策を万全にしつつ、どうにかして「体験」を届けていきたいです。

せは「途中でまで」を基本としていますが、実際には保護者から「全部読んでもらえませんか？」とリクエストを受けることが多いそうです。こうした声が聞かれるのは、スタッフが、一組ごとに椅子や筆記用具などを丁寧に消毒している様子を見て、保護者が安心感を覚えていること、表れかもしれません。

また、離れた距離からの読みみかせで赤ちゃんの反応を引き出せるかどうか、当初は不安に感じていましたが、実際はキャッキャと声を上げ、全身で喜びを表してくれる赤ちゃんが多くいました。



十分な距離を保って読みみかせ。声を出して笑ってくれる赤ちゃんも

CASE 03

大阪府泉南市
ボランティアのモチベーション維持のために

ボランティアによる
読みみかせは休止

表紙（p1）の写真は、2017年に泉南市で撮影したものです。通常はこのように、ボランティアが赤ちゃんや保護者に向き合い、ゆったりとした雰囲気の中でブックスタートを行っています。しかし、2020年度中のボランティアによる読みみかせは、感染予防の観点から



透明シート越しに職員がブックスタートを実施



3回連続講座。ボランティアどうしが再会し、声をかけあう機会にも

ら休止に。6月からは、図書館と子育て支援センターの職員が4か月児健診会場に向き、透明シート越しにブックスタートを行っています。

アフターコロナに向けて、学びの機会を提供

約1年間の活動休止をボランティアは非常に残念に感じています。そうしたボランティアのモチベーションを維持すべく、図書館では講座を開催。絵本や赤ちゃんの発達、市の子育て支援等について、学ぶ機会を提供しました。新たに活動を希望する人の参加もあり、アフターコロナに向けて力を蓄えています。

CASE 01

鳥取県鳥取市
コロナ禍でも
「ゆっくり・ゆったり・にっこり」

密の回避と感染予防策の徹底

鳥取県鳥取市では、緊急事態宣言の解除に伴い、5月中旬から、6か月児健診とブックスタートを再開。健診再開にあたっては、密を避けるため、親子の来所時間を事前に指定しました。

ブックスタート会場では、座布団の代わりにマットを置いて毎回消毒。以前は自由に手に取れるよう本棚に置いていた絵本は片づけました。また、お渡しする絵本を紹介するための資料はラミネート加工し、消毒できるようにしています。

これまで通り、ボランテアが読みみかせを担当していますが、マスクの着用はもちろん、いつもよりも距離を置き、当日の体調確認と検温を徹底しています。

「わらべうた」「読みみかせ」も実施

実施方法の検討にあたっては、事業開始から16年間大切にしてきた鳥取市ブックスタートの合言葉「ゆっくりにっこり・ゆったり・にっこり」が大きな

VOICE



鳥取市保健所 保健師
小森 里美さん

家にもこもりがちな親子が増えています

感染を心配して赤ちゃん和家人にもこもりがちな方も多く、健診ではその分話が尽きません。赤ちゃんに参加できるイベントや場所に行くにも、事前予約が必要なこともあり、外出へのハードルは通常より高くなっています。「いつでも行ける」と思えるだけでも気持ちは楽になるものですが、それが保証されない今の状況は、子育て中の保護者にとって、大きなストレスになっているように感じます。

「顔」が見える関係性を大切に

健診では保護者の思いをしっかりと受け止めるよう心がけています。そして、なにかあれば担当地区の保健師が、電話や家庭訪問でも相談にのれることを伝えています。健診等を通じて、顔が見える関係性が築かれていれば電話でも話しくなりやすくなります。ブックスタートも、その地域に暮らすボランティアさんと保護者とが会える場。街中で再会することもあるかもしれません。感染予防策は徹底しつつ、「顔」が見える関係性を築くことも大切にしたいです。

な指針となりました。コロナ禍でも保護者に赤ちゃんの可愛い反応を見てもらい、帰宅後、赤ちゃんの絵本を読んでみようとという気持ちになってもらいたい。合言葉をよりどころに検討した結果、短時間でやることを前提に、これまでどおり、人形を使った挨拶、わらべうたの紹介、絵本の読みみかせを行うことになりました。



うさぎのしかけ人形で「こんにちは」と挨拶。マスクの下ではみんな笑顔に。

CASE 02

埼玉県三芳町
全員が安心して
参加できるように

シミュレーションを重ね、
距離を保って読みみかせ

埼玉県三芳町では、4か月児健診とブックスタートを7月に再開。保護者とボランティアに安心して参加してもらえよう、図書館員が事前にシミュレーションを重ね、準備をしました。

再開から2か月は図書館員のみで実施し、流れや留意点を確認。その上で9月からは、ボランティアにも絵本の読み手として協力してもらっています。会場では、消毒や部屋の換気、マスクの着用を徹底。ソーシャルディスタンスの目安とされる2mを保つため、180cmの長机の長辺両端に椅子を設置し、親子と対面します。また、コロナ禍以前の会場写真を保護者に見せ、「今日は離れて読みますが、赤ちゃんはまだ視力が弱いので、これくらい近づけて読んでみてください」と説明しています。

保護者から「全部読んでほしい」とリクエスト

時間短縮のため、絵本の読みみか

CASE 04

千葉県柏市

アイデアを持ち寄り、
親子への思いを形に

行政と市民が意見を出し合い、
運営会議で対応を検討



コロナ禍の対応を検討

千葉県柏市では、コロナ禍での対応について運営会議を開催し、職員とボランティアそれぞれの立場から意見を出し合いました。協議の結果、当面、1歳6か月健診会場でのボランティアによる読みきかせは休止し、保健師から絵本を手渡すことが決定。しかし、市民が親子の幸せを願う「思い」をなんらかの方法で届けられないだろうか、更に検討がなされました。

絵本を楽しむポイントを紹介した
掲示物を作成

そこで出されたアイデアが、会場にあたたかな雰囲気をもたらしながら絵本を紹介する手作りの装飾です。2冊の絵本（プレゼントは、うち1冊）の印象的な場面を模造紙に再現。受け取る絵本を選ぶ際の手掛かりとなるよう、それぞれの絵本を楽しむポイントを添えました。



絵本『かにこちゃん』『りんご』を紹介する掲示物。「こんな ゆうひ みたことある?」「まあるいりんご 美味しそうだね!」など、絵本を手渡す際に親子に伝える言葉を添えています。制作にあたっては、出版社から許諾を得ています。

* * *

親子のために「最善を尽くす」。それはコロナ禍においても変わらず大切にしたいことです。

NPOブックスタートでは引き続き、ウェブサイト等を通じて、各地の取り組みを紹介していきます。ぜひ情報をお寄せください。

お知らせ

NPOブックスタート主催
子ども・社会を考えるシリーズ

オンライン講演会

『こども・えほん・うたのこと』

開催決定!



シンガー絵本ソングライター
中川ひろたかさん

① ライブ配信 <zoom>

3/7(日) 14:00-15:50

[申込受付]

1/12(火) 12:00 ~ 3/4(木) 12:00

② 見逃し配信 <YouTube>

3月末までの期間限定

▶詳細は当法人
ウェブサイトへ



ご活用ください!

2分で分かる 動画「赤ちゃんといっしょにえほん」

「赤ちゃんに絵本はまだ早い?」
「絵本を読むのって難しそう……。」
保護者からのそんな声にお応えするため、ブックスタート事業に込められたメッセージを動画にしました。当法人公式YouTubeチャンネルで公開しています。

自治体の方へ——
QRコードと動画データを提供しています。コロナ禍で読みきかせが難しいなど、保護者に趣旨を伝える素材としてお使いください。詳しくは自治体支援担当まで。



▶ご視聴は
こちらから



NPOブックスタート
の取り組み

ことのは

NPOブックスタートのスタッフが出合った言葉

だから まっててね。
きっと いろんなことができるひとになって かあさんに あいにくるわ。

やる気があっても失敗ばかりの女の子と、その姿を見守るお母さんとのやり取りを描いた絵本の一節から。子どもを「まって」やりたくてもなかなかできない毎日の中で、絵本の時間は、表情を見ながらページをめくったり、「もういっかい!」にこたえたりして、子どものペースに寄り添えます。「待つ」とは一方的な営みではなく、親子で同じ場所に留まるときなのだ、子どもといっしょに絵本をひらくたび思います。
(『まっててね』シャーロット・ゾロトウ文/エリック・プレグヴァド 絵/みらいなな 訳/童話屋)